

研究課題名「非侵襲的陽圧換気もしくはネーザルハイフローの装着から挿管に至った呼吸不全患者の予後の検討」に関する情報公開

1. 研究の対象

2011年4月1日から2018年12月31日までに当院内科系・救急集中治療室に入室されて気管挿管された成人が対象となります。

2. 研究目的・方法・研究期間

通常酸素投与では呼吸が苦しくなる患者さんに対して、呼吸を楽にするために非侵襲的陽圧換気（以下NPPV）あるいはネーザルハイフロー（以下NHF）という機械を我々は頻繁に使用しています。これらの機械はとても有用であります、効果がなかった場合、呼吸を補助するための人工呼吸管理を開始するのが遅れてしまう側面があります。これまでの先行研究でこれらの機械によるサポートから人工呼吸器による管理に移行になった場合、初めからサポートを試すことなく人工呼吸管理とした患者さんに比べて、結果的に患者さんの予後が悪くなるということが知られています。しかし具体的にどのくらい遅れば予後が悪くなるのか詳細に検討した論文は存在しません。本研究はNPPVもしくはNHFの治療の不成功が挿管患者の予後とどのように関係しているか詳細に検討することで、将来より適切なNPPV、NHF、挿管の管理ができるようになることを目的としています。

研究方法は、後方視的な観察研究であり、当院救急・内科系集中治療室に入室された成人の方を対象にし、電子カルテで、NPPVもしくはNHFの装着から気管挿管までの時間、生命予後等を調べ、その時間と生命予後等との関連を統計学的に解析します。研究期間は、実施承認日から2020年3月31日までを想定しています。研究を主に行う組織は、名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部ならびに名古屋大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学になります。

本研究における研究組織

1 研究代表者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院救急科・助教・錦見 満暁

2 研究責任者（所属・職名・氏名）

名古屋大学医学部附属病院救急科・助教・錦見 満暁

3 研究分担者（所属・職名・氏名）

名古屋大学大学院医学系研究科 生物統計学分野・准教授・高橋 邦彦

// ・ 大学院生・西田 一貴

名古屋大学医学部附属病院呼吸器内科・助教・進藤 有一郎
名古屋大学医学部附属病院救急科・助教・沼口 敦

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテ番号、年齢、性別、病歴、呼吸状態 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。ただし、研究結果を公表した後は、お申し出頂いた患者さんのデータを除去できない場合があります。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

電話 052-744-2659

名古屋大学医学部附属病院 救急・内科系集中治療部 錦見 満暁（研究責任者）